

杉並区地域支え合いの 仕組みづくり事業とは

地域住民等が地域生活課題を把握し、解決を図る試みができるように、地域における住民主体の支え合いの仕組みづくりを推進することを目的とした事業です。

地域住民や関係機関とネットワークを構築し、地域の生活課題を一緒に考え、公的サービスや地域活動へつなぐ支援を行います。

事業を推進する福祉の専門職「地域福祉コーディネーター」を地区に配置しています。

地域福祉コーディネーター

地域生活課題を発見し、地域住民や関係機関と協力しながら、地域における支え合いの仕組みづくりやネットワークづくりをする福祉の専門職です。

- ちょっとした困り事や地域の課題をまずはお聞きして、受け止めます。
- 相談者の声に耳を傾けながら、地域の皆さんと一緒に解決に向けて、考えます。

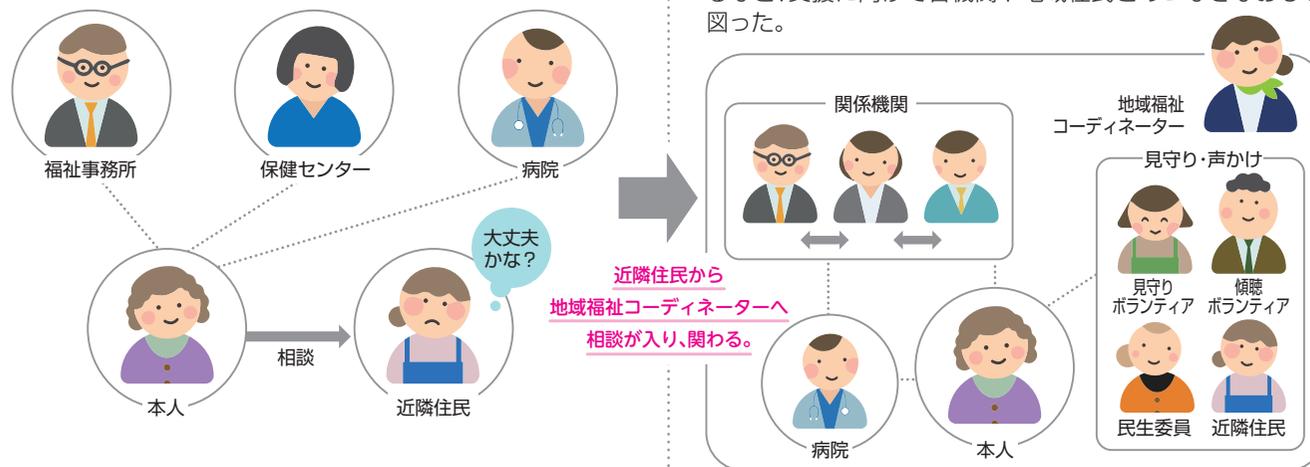


具体的な動きはこちら→

支援のイメージ

Case1 近隣住民からの相談により、本人の困り事を整理し、支援のネットワーク化を図ったケース

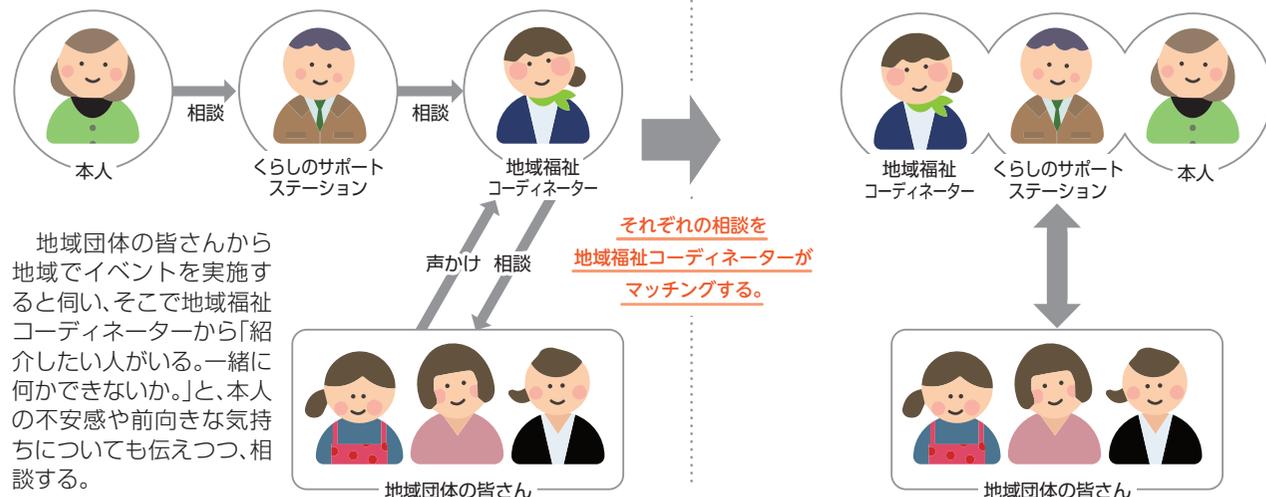
相談歴があったが、継続的な相談はしておらず、本人は不安感を抱え、近隣住民に悩みを相談する。



地域福祉コーディネーターが本人から不安な気持ちをお聞きし、困り事の整理を行って、必要に応じ、受診同行や関係機関の窓口への同行、本人了承のもと関係機関と情報共有をするなど、支援に向けて各機関や地域住民とのつなぎなおしを図った。

Case2 支援機関からの相談により、本人の気持ちに寄り添いながら地域活動や地域の人たちの輪につなげたケース

くらしのサポートステーションより、「就労の準備としてボランティアなど何かやりたい気持ちがあるが、人との関わりが苦手で自信がない人がある。何か地域と接点を持てないか。」と相談を受ける。



地域福祉コーディネーターが入ることで、本人の気持ちに寄り添いながら地域団体と接点を持ち、地域活動につながるきっかけ作りができた。地域団体の皆さんがあたたかく迎え入れることにより、本人にとって人との関わりの輪が広がった。

地域団体の皆さんから地域でイベントを実施すると伺い、そこで地域福祉コーディネーターから「紹介したい人がある。一緒に何かできないか。」と、本人の不安感や前向きな気持ちについても伝えつつ、相談する。

それぞれの相談を
地域福祉コーディネーターが
マッチングする。